

### 3 支援者の感想

#### 外部支援者

富山大学名誉教授 永山 くに子 氏

中部厚生センター 主幹・保健予防課長 若杉 央 氏

富山県立中央病院 看護研修科長 四十田 真理子 氏

## 危機状況から転換への道のりで感じたこと

富山大学名誉教授 永山くに子

令和4年度、本モデル事業はかみいち総合病院にて実施されました。これまでは周産期ケア全般を担ってきた施設が、諸事情にて分娩休止という状況を受け入れることから、今後の方針転換をめぐり、検討することになりました。背景には少子化問題や周産期医療（安全安心の医療提供）の新システム化など当該施設や自治体が独自で解決できない問題に直面していることも判ってきました。

このような状況を踏まえ、基本的には地域に特化し、地域を巻き込んだ周産期医療に伴うケアの見直しを図ることと同時にスタッフ教育の見直しを図るという方向に転換をすることとなりました。検討時間としては比較的短期間に課題の集約化が図られ次年度に向けた内容が提示されました。特徴的なことのひとつが「地域で生活する対象」に焦点が当てられていることでした。ケアの最終目標は「自立」にあるとの考えから概念的にも対象をとらえるには国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）による見直しが必要とならざるを得なくなってきました。標記されたウイメンズヘルスの対象のとらえ方もこれらに準拠し、教育内容の検討がなされることを期待しています。

一方、検討会の中でも議論した県東部の周産期医療体制の実情から、大きな課題が問題として提示されました。コロナ禍も加わり、里帰り出産の多い、地域の特性からして「お産難民」のような状況が起きないように施設間の連絡調整を密にお願いしたいと思います。

## 妊娠から子育て期までの切れ目のない支援を担う人材の育成

富山県中部厚生センター 主幹・保健予防課長 若杉 央

母子保健をめぐっては、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援が求められ、関係機関が連携しながら、母子の健康を支援しています。

市町村では、妊娠届出時の面談、子育て支援プランの作成、新生児・産婦訪問、産後ケア事業などを実施しています。

厚生センターでは、管内の母子保健体制の強化を図るため、周産期保健医療地域連携ネットワーク会議の開催や研修会・事例検討会、連絡会を開催しています。

かみいち総合病院においても、妊娠、出産、産後のケアなどについて役割を発揮されてきています。この度、2022年9月で分娩を休止することから、地域の母子を支援するためのケアの充実を目指して、産前・産後ケアワーキングチームを設置し、地域とも情報共有しながら課題の整理、セミオープンシステムの構築、産前・産後ケア事業の検討など、地域のニーズに対応した取組みを検討されました。

それらと並行し、質の高いケアを提供する助産師、看護師等を育成するための教育体制の構築に取り組みされました。

これまでも、クリニカルラダーや看護管理者のマネジメントラダーの作成、運用をはじめ、看護職員の人材育成に取り組んできておられます。

今回も、母子の健康を支える専門職として、妊産婦とその家族の課題に対応するためにはどのような能力が必要か、その能力をどのように修得するのか議論を重ね、助産師ラダーを構築されました。ラダーには、倫理的感応力、マタニティケア能力、専門的自律能力、ウィメンズヘルスケア能力と多岐にわたる能力が示されています。今後はこのラダーの運用や産前・産後ケア事業などを展開し、評価することで、さらなる充実につながると考えております。

これからも、皆様と連携しながら、母子の健康を支える地域づくりを目指していきたいと思います。

## 看護職員育成モデル病院事業に外部支援者として参加して

富山県立中央病院 看護研修科長 四十田真理子

外部支援者としてかみいち総合病院の取り組みに参加させていただき3年目となりました。1～2年目は、多様化するヘルスケアニーズに対応し、質の高い組織的な看護サービスを提供する看護管理者を育てることを目的としたマネジメントラダーを作成し、実践されました。そして3年目は、地域で生活する妊産婦とその家族に切れ目ない支援を行い、女性の生涯にわたる健康ケアを行うための助産師ラダーを作成されました。この助産師ラダーは来年度実践される予定です。この3年間、かみいち総合病院の皆さんのやる気に満ちた笑顔に元気をいただくとともに、会議に参加することによりかなりのスピードで進化していく報告内容に圧倒されていました。

かみいち総合病院は、令和4年10月に分娩業務を休止するにあたり、出産前後のサポートの強化にも取り組まれました。ピンチをチャンスととらえ、産前・産後ケア事業に取り組まれたことは、助産師のやりがいにもつながっていました。まさにレジリエンスの高い組織であると思いました。

事業のなかでも、来年度から行われる県内自治体で初の取り組みである娯楽施設利用型の産後ケアが、とても興味深かったです。産後ケアはこれまで5カ月未満の母子を対象にしていたのですが、来年度からは1年以内に拡大して行われるそうです。食事をしたり、温泉に入ったりしながら助産師のサポートが受けられるこの魅力的な事業は、行政と連携し、地域の特性を生かしながら産後の母子を守りたいという病院の熱い思いから生み出されたものと思います。多職種で取り組む産後ケアをウリにしておられ、まちの住民のために組織が一丸となって役割を果たそうとしている姿勢が伝わりました。

マネジメントラダーは、教育委員会の方々、助産師ラダーは、助産師の方々が中心となって作成しておられ、メンバーは違っていました。それぞれに膨大で緻密な作業をスピーディーに完璧にこなしておられたことがとても印象的でした。それは、部長さん、副部長さんのリーダーシップの下、効率的にそして楽しくこの取り組みが進められていたからだと思います。そしてここまで積み上げてきた土台があるからこそ、その上に自分たちのあるべき姿、あるべき姿を実現するための戦略、実践を積み重ねていけたのだと感じました。